

広川町第5次総合計画策定に向けた
広川みらい会議
(町民ワークショップ)

実施報告書

令和5年3月

目 次

| | |
|-----------------------|----|
| 広川みらい会議実施にあたって..... | 1 |
| 1 広川みらい会議の目的..... | 1 |
| 2 実施手順..... | 1 |
| 3 各回の実施概要..... | 2 |
| 各政策グループの意見・提言の整理..... | 4 |
| 1 産業グループ..... | 4 |
| 2 保健・医療・福祉グループ..... | 6 |
| 3 子育て・教育・文化グループ..... | 8 |
| 4 暮らし・生活環境グループ..... | 10 |
| 参考：分野を横断する取組の整理..... | 12 |
| ◇ 人口規模に対応したまちづくり..... | 12 |
| ◇ 情報の発信..... | 12 |

広川みらい会議実施にあたって

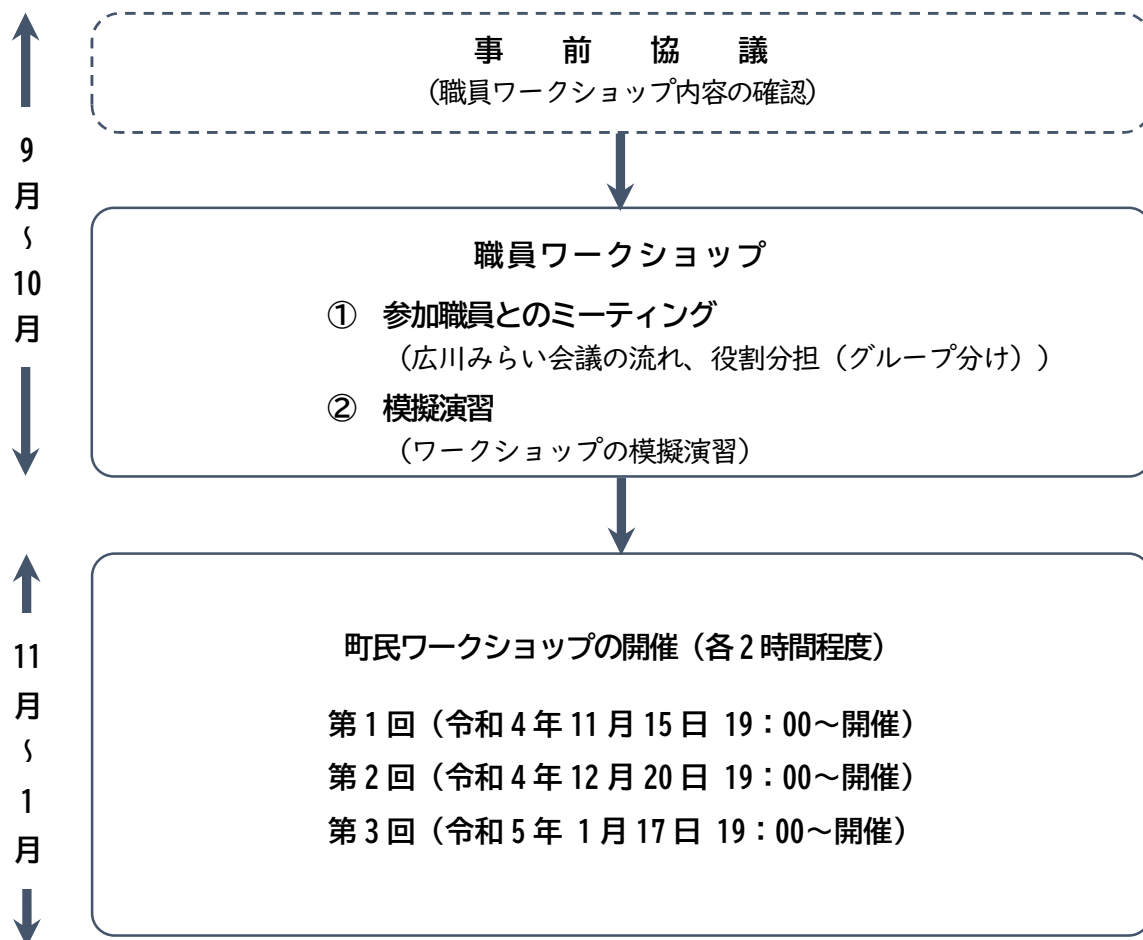
1 広川みらい会議の目的

広川みらい会議は、「みんなで話そう。これからの広川町のこと。」をテーマに、広川町第5次総合計画策定にあたり、今後のまちづくりに必要な取組などについてアイデアを出し合い、新たなまちづくりへの意見、提言とすることを目的に実施しました。

また、住民と行政との協働によるまちづくりを推進に向けて、参加する住民と町職員が、テーマごとにまちづくりへの想いや意見を共有し、参加者同士のコミュニケーションを深め、ともに将来のまちづくりを考えるきっかけとしました。

2 実施手順

広川みらい会議開催にあたっては、町職員が各グループの進行を担当するため、模擬演習として職員ワークショップを10月に開催しました。その後11月～1月にかけて、広川みらい会議（全3回）を開催しました。



3 各回の実施概要


第1回 テーマ：『町の良いところ、課題となることを探ってみよう』

第1回では、今回策定する第5次広川町総合計画について、アンケート調査での意見（速報値）による、まちの現況について説明後、分野を問わず、広川町の魅力や暮らしでの困りごとなどについて意見交換を行いました。

なお、第1回会議終了後に、次回会議の政策分野グループ希望調査を行い、第2回・第3回のグループ分けを行いました。

総合計画について
～総合計画って何だろう～

- 総合計画は、今後8年間の広川町をどのような「まち」にしていくのか、そのために町や暮らしみなさんが、どんなことに取り組んでいくのかを、まとめたもので、私たちのまちづくりの「将来設計図」となるとても大切な計画です。
- 総合計画は、町政の最上位計画で、行政が実施する事務・事業は、すべて総合計画に基づいて実施されます。
- 今回策定するのは、第5次広川町総合計画（令和6～13年度）です。



6

基本構想 まちづくりの基本理念及び方向性

目指す将来の姿と、その実現に向けた
長期的なまちづくりの指針を示すものです

基本計画 基本構想を実現させるための分野ごとの
施策の方向性

福祉、子育て、産業、防災・・・など分野ごとの課題と
その課題解決に向けた取組みを示すものです

実施計画 基本計画に基づき実施する3年間の
（令和6年度～令和8年度）

『広川みらい会議』のご意見・ご提言

7




第2回 テーマ：『8年後に目指したいまちの姿を考えよう』

第2回からは、「①産業」、「②保健・医療・福祉」、「③子育て・教育・文化」、「暮らし・生活環境」の4グループに分かれ、第1回で挙げた意見やアンケートでの意見等を参考に、8年後に目指したいまちづくりに向けて、これからの広川町に必要な取組、暮らしの困りごとを解決する系口について、意見を出し合いました。

意見交換

8年後に目指したいまちの姿を考えよう。

「これからの暮らしをより良くするために、
町の暮らしにはどのような必要がありますか？
各分野でどのような取組が必要ですか？」



第2回ワークショップについて

第2回の広川みらい会議では、4つの政策分野のグループに分かれて、話し合いを行います。

| | |
|-----------------------------|-----------|
| ①産業 | ②保健・医療・福祉 |
| 分野ごとに解決すべき課題や 取組を考えてみよう。 | |
| ③子育て・教育・文化 | ④暮らし・生活環境 |

第3回 テーマ：『8年後の自分、町のために、今からできることを発してみよう』

第3回では、第2回の意見交換を継続した後、最後に各政策分野で目指すまちの姿、特に力を入れる取組（上位3項目）を挙げ、各項目の課題、解決策について発表を行いました。



各政策グループの意見・提言の整理

1 産業グループ

めざす姿

伝統を守りつつ、チャレンジできる町

この分野で、広川町が特に力を入れる項目

1位： 久留米餅

(その理由：伝統的な物、希少価値を活かせる可能性がある)

2位： 新規事業への支援

(その理由：現状、広川町で事業できる気がしない)

3位： 情報発信

(その理由：アピールする力が弱いから)

● 提言にあたって(政策分野を取り巻く時代背景)

現在の地域経済を牽引する主要産業においては、今後、担い手の十分な確保が難しくなることが考えられ、既存産業の振興、担い手の確保による地域の活性化は、今後ますます重要と考えます。

一方で、ICT（情報通信技術）活用、地域性を生かした観光などでは、地域経済への貢献も期待され、町内においては、特産品や工業団地など、地域経済の好循環をつくる、様々な可能性も広がっています。

人口減少社会が進む中で、地域経済の活性化を図っていくためには、地域ごとの特性を生かし、地域発の新たな魅力の創出や、地域経済をより強くしていくための仕組みづくりなど、事業者や生産者とともに考え、行動していく必要があります。

そこで、産業グループでは、目指す姿を「伝統を守りつつ、チャレンジできる町」とし、「久留米餅」、「新規事業への支援」、「情報発信」を特に力を入れる項目として挙げました。

● 広川町が特に力を入れる項目について（提言）

1 久留米絣

第1位項目 < 久留米絣 >の課題は、
収益が少ない、担い手不足

解決方法

- ・イベントの開催
- ・ECサイトの設立
- ・町内へのアピール
- ・国外へのアピール（アジアへの販路づくり）
- ・久留米絣でつくった袴を成人式でレンタル

2 新規事業への支援

第2位項目 < 新規事業への支援 >の課題は、
支援が弱い、誘致の内容が不明

解決方法

- ・新規事業への金銭的支援
- ・ネット環境の支援
- ・子育て世代社長への支援

3 情報発信

第3位項目 < 情報発信 >の課題は、
紙ベースでの発信、効果的に発信できていない

解決方法

- ・町のイベント SNS で発信
- ・インフルエンサーを呼ぶ
- ・町外の人に向けた発信、電話音声による情報発信
- ・個人の SNS 発信を促す

2 保健・医療・福祉グループ

めざす姿

町の中で完結できる保健・医療・福祉づくり

この分野で、広川町が特に力を入れる項目

1位： 移動手段の確保

（その理由：細い道には入ってこられない）

2位： 身近で気軽に相談できる窓口

（その理由：目に見えない課題がたくさんある）

3位： 受け取りやすい情報

（その理由：子どもから高齢者まで色々な方法で受け取れる仕組み）

● 提言にあたって(政策分野を取り巻く時代背景)

今後人口の減少や出生率の低下、高齢化の進展は、広川町においても例外ではありません。誰もがいきいきと自分らしく住み続けられるまちづくりのためには、町と住民、世代間の協力のもと、ともに助け合い、必要な相談や支援につながるような、一人ひとりを大切にしまちづくりが求められています。

また、支援に頼るだけでなく、自立した暮らしを継続できるよう、日常生活に不可欠な公共交通をはじめとする移動手段の確保や自ら必要な情報を受け取ることのできる環境も重要となります。

そこで、保健・医療・福祉グループでは、目指す姿を「町の中で完結できる保健・医療・福祉づくり」とし、「移動手段の確保」、「身近で気軽に相談できる窓口」、「受け取りやすい情報」を特に力を入れる項目として挙げました。

● 広川町が特に力を入れる項目について（提言）

1 移動手段の確保

第1位項目 < 移動手段の確保 >の課題は、
細い道には入ってこられない

解決方法

- ・ デマンド交通の導入
- ・ ボランティアの育成
- ・ 利用方法の講習（使いにくいを使いやすい）
- ・ 柔軟な利用体系（例：八女市の循環バス、移送サービス）ル

2 身近で気軽に相談できる窓口

第2位項目 < 身近で気軽に相談できる窓口 >の課題は、
目に見えない課題がたくさんある

解決方法

- ・ 認知症カフェみたいに気軽に相談できて、支援に繋がる体制
- ・ 各地域をまわって集まる場、相談機会をつくる

3 受け取りやすい情報

第3位項目 < 受け取りやすい情報 >の課題は、
子どもから高齢者まで色々な情報を受け取る手段が少ない

解決方法

- ・ 広報を
LINE、dボタン（若い方）
防災ラジオ（希望者）
ボタン一つで町とつながる情報を受けられる（年寄り、一般）

3 子育て・教育・文化グループ

めざす姿

広川町に愛着を持った次世代リーダーを増やす！

この分野で、広川町が特に力を入れる項目

1位： 人材育成

（その理由：町の担い手不足、若者の転出）

2位： 世代間交流

（その理由：地域コミュニティの担い手不足）

3位： 情報の共有

（その理由：情報がうまく伝わってないため）

● 提言にあたって(政策分野を取り巻く時代背景)

地域の子どもの数が減少する中、切れ目なく安心して子育てができる環境づくりに向けて、家庭や地域が一体となり、子どものたくましく生きる力を支えていく必要があります。

そのためにも、多様化する子育ての要望や課題について、福祉、教育といった分野を横断して、地域の人材と関係機関といった、多様な団体・人材と連携を図りながら、総合的に取り組むことが重要ではないかと考えます。

また、教育・文化活動は、住民一人ひとりの自ら学び行動する力がまちづくりを担う基盤になります。そして地域の自然、歴史と文化に触れる機会は、郷土愛を培うことにもつながります。

そこで、子育て・教育・文化グループでは、目指す姿を「広川町に愛着を持った次世代リーダーを増やす！」とし、「人材育成」、「世代間交流」、「情報の共有」を特に力を入れる項目として挙げました。

● 広川町が特に力を入れる項目について（提言）

1 人材育成

第1位項目 < 人材育成 >の課題は、
生涯教育プログラム

解決方法

- ・場所、イベント、経験、交流の場を増やす
- ・プログラムの中に町を知る内容を盛り込む
- ・ほめられる機会を増やす（次も頑張ろうと思える）

2 世代間交流

第2位項目 < 世代間交流 >の課題は、
行政区・公民館活動の衰退

解決方法

- ・子ども会、老人クラブが交流する機会を作り、意図的に親世代を巻き込む
仕掛けを作る
- ・仕掛け人を作る

3 情報の共有化

第3位項目 < 情報の共有化 >の課題は、
情報が手に入る仕組みづくり

解決方法

- ・知ろうとしなくても情報が入ってくる仕組みづくり
- ・知りたいと思える広告づくり、サイトづくり
- ・SNSの充実
- ・住民も発信できるプラットフォームの構築（例：広川町専用アプリ、ハッシュタグひろかわ）
- ・タイムリーな情報を知ることができる仕組みづくり

4 暮らし・生活環境グループ

めざす姿

多文化共生のまち

(町内外・国籍問わず交流が盛んなまちにしたい)

この分野で、広川町が特に力を入れる項目

1位： 地域コミュニティ

(その理由：世代間のコミュニケーションに課題があるから)

2位： 交通

(その理由：すべての世代（特に若者）に対しての利便性を図る仕組みが無いから)

3位： 環境

(その理由：プラスチックの分別がされていないと言った課題があるから)

● 提言にあたって(政策分野を取り巻く時代背景)

生活環境は、ソフト・ハードの両面から重要な取り組みであり、暮らしの利便性、快適さに必要な生活基盤を維持し、さらには災害や事故から住民の大切な生命、財産を守る安全対策、ごみの減量化などの環境対策など、多岐にわたるだけでなく、住民の暮らしに求めるニーズや課題も多様化しています。

近年では、地域での支え合いや地域コミュニティの維持が次第に難しくなるほか、外国籍の住民も増えてきており、生活習慣や文化の違いから、ごみ出し等の生活ルールやコミュニケーションなど、様々な不安を抱えて生活をしている人もいます。

そのため、国籍に限らず、ともに暮らす地域の一員として、多様な文化や価値観の違いを受け入れられる環境は、新たな交流にもつながることから、多文化共生の視点に立った“これからも住み続けたい”と思えるまちづくりを進めていくことも重要となります。

そこで、暮らし・生活環境グループでは、目指す姿を「多文化共生のまち（町内外・国籍問わず交流が盛んなまちにしたい）」とし、「地域コミュニティ」、「交通」、「環境」を特に力を入れる項目として挙げました。

● 広川町が特に力を入れる項目について（提言）

1 地域コミュニティ

第1位項目 < 地域コミュニティ >の課題は、
世代間のコミュニケーション、地域役員のなり手不足

解決方法

- ・区の合併
- ・数区単位での活動の協同化（町民体育大会、文化祭など）
- ・公民館で数か月に1回「おしゃべりの場」を開催する
- ・校区単位の図書館、カフェの整備（小学校図書館や空き家の活用）
- ・近所の声かけあい
- ・安全性・機能性を高めた公園整備

2 交通

第2位項目 < 交通 >の課題は、
ふれあいタクシーのバス停の範囲が狭い
若者に対して利便性を図る仕組みが無い

解決方法

- ・全町民対象にアンケートを行い、実態を把握する
- ・定期的に運行する地域コミュニティバスの運行
- ・自動運転バス
- ・自家用車を持つ人が、どこかに行くついでに近所の人を乗せて行く（ついでにタクシー）

3 環境

第3位項目 < 環境 >の課題は、
プラスチックの分別がされていない など

解決方法

- ・町民の意識をあげるため、有志を募り、集まる場をつくる
- ・勉強会を開く
- ・プラスチック、生ごみの分別
- ・ごみ搬出の利便性向上

参考：分野を横断する取組の整理

「広川みらい会議」では各部会での課題を話し合い、各分野での取組みを提言としてまとめられています。

こうした各政策グループの意見から、“分野別”の取組みのほかに「人口減少に対応したまちづくり」、「情報の発信」といった“分野を横断して共通する取組み”があるように思います。

こうした取組みについても、今後のまちづくりにおけるポイントとして整理します。

◇ 人口規模に対応したまちづくり

人口減少は、地域経済の成長や行財政基盤の低下、地域コミュニティの維持や子どもの健全育成への影響など、様々な分野に影響を及ぼし、将来の地域社会の姿を変えていくことが考えられます。

広川町においても将来の人口を見据え、人口規模に対応した持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。

一方で、人口減少によって影響が懸念される人材不足、地域経済の低下に備える必要があります。

◇ 情報の発信

現代社会において、情報通信技術の目覚ましい進化・発展は、単なる情報発信の媒体としてではなく、暮らしやコミュニケーション等、様々な分野で活用が進んでいます。

そのため、情報の発信を通じて、地域の持続的な発展に必要な人材、流通、消費等、地域経済の動きに関わる情報をはじめ、地域の魅力に共感してくれる人と人との良好な関係の構築に向けて、様々な機会を捉え、広川町の魅力を効果的に町内外へ情報発信し、住民とともに認知度の向上を目指していくことが求められます。

また、暮らしに関わる様々な生活、支援に関する情報が、確実に住民に届くよう、対象や目的、内容に応じて情報を伝達する手段を選択し、新技術を取り入れながら効果的な情報発信が必要となります。

一方で、高齢化の進む地域社会においては、高齢者等が情報化に取り残されていくという情報格差の問題、コンピューターウイルスや不正アクセスなどに対する情報セキュリティの確保等に、適切に対応していくことが求められます。